

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成30年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	①活かせる学力の育成 ②多様な学びの場の提供	①基礎基本を主体とした、上級学校や社会生活での「活かせる学力」の育成に向けた授業の展開と教育課程の見直しを図る。 ②「通級による指導」の導入と実施をスムーズに行い、対象生徒の要望に応える。	①共通テーマとICT機器利活用による授業研究会の実施と各教科会による取組の発表とまとめを行う。 ②保護者・生徒と共に「個別の支援計画(支援シート)」、「個別の指導計画」を作成する。	①「生徒による授業評価」 「魅力と特色ある県立高校づくりアンケート」の回答で満足度が、上昇したか。 ②「個別の支援計画(支援シート)」、「個別の指導計画」にもとづき、生徒の実態を踏まえた効果的な指導ができたか。
2 生徒指導・支援	①部活動活性化 ②人間性・社会性豊かな人づくり	①部活動の問題点・課題点を把握し、解決と加入率アップに向けた方策の検討を行う。 ②規範意識の醸成といのちや他者とのかかわりを大切にする心の育成を図る。	①年間複数回の部活動加入キャンペーンの実施。 ②全ての教育活動において時間厳守を励行し遅刻指導を徹底する。生徒の実態に応じてコミュニケーション能力向上等に向けた各種教室・講演会を開催する。	①学校全体で加入率増加の為の意見交換ができたか。部活加入率が65%となったか。 ②遅刻者年間延べ人数が10,000名以下(2割削減)になったか。生徒の実態に応じた各種教室・講演会を開催できたか。
3 進路指導・支援	進路発見と進路実現	第一志望の選択能力の育成と豊かな進路実現をサポートする。 インターンシップへの積極的参加を促し、広い視点から進路を発見できるよう内容の充実を図る。	実力診断テスト等により職員、生徒それぞれの成績分析会を実施する。 総合的な学習の時間等で職業理解・勤労観を養い、インターンシップを積極活用するよう取り組む。	指定校やAO入試の応募状況と進学先の分析を行ったか。 昨年度に比べてインターンシップ参加者が10名以上増えたか。
4 地域等との協働	地域教育力の活用	地域の中学校や大学と協働し、3年間の枠組みを超えた視点で教育活動を捉える機会を作る。 社会の一員として意識できるよう、防災活動などの地域連携の行事に参加する。	近隣中学校と、授業及び学校行事の相互見学を行い、意見交換をする。 地域との防災活動に参加できるように生徒の意識を高めるような取り組みを行う。	多数の職員が、校内及び近隣中学校との相互見学や意見交換の機会を複数回活用したか。 防災活動などの地域連携の行事に参加できたか、地域と協働した行事ができたか。
5 学校管理 学校運営	①教育環境の整備 ②事故・不祥事ゼロの取組	①周年事業に引き続き教育環境等を整える。安全衛生に配慮した整備を行う。また、生徒状況に合わせて、通級に関する施設整備を行う。 ②職員一人ひとりが、事故・不祥事防止を自らの問題として認識し、事故・不祥事の未然防止に取り組む。	①学習や部活動に支障が出ないように環境整備に努める。トイレ衛生や教室、体育施設の安全面を改善・改修する。 ②グループ主催で、事故・不祥事防止研修会を開催する。正確な点検作業を行う。	①教育環境やトイレ等の衛生状態について、改善されたか。生徒アンケート等により検証する。 ②各グループ、事故・不祥事防止研修会を開催できたか。正確な点検作業を行えたか。

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	「活かせる学力」 の育成	基礎基本を主体とした、上級学校や社会生活で「活かせる学力」の育成に向けた授業の展開と教育課程の見直しを図る。	共通テーマとICT機器利活用による授業研究会の実施と各教科会による取組みの発表とまとめを行う。	「生徒による授業評価」や「魅力と特色ある県立高校づくりアンケート」等の回答で「かなり当てはまる」や「とても満足している」の回答率が上昇したか。	ICT機器利活用についての研修会を開き、実際に利用する職員が増加した。授業研究にビデオを利用するなどの工夫をした。「生徒による授業評価」の結果は1回目より2回目の方が概ね良好だったが、教科による差もあった。教育課程については、平成34年度の改訂と大学入試の変更を視野に入れ、改訂を行った。	ICT機器の活用が広がるよう機器管理整備を進め、誰もが使いやすい環境を整える。教科会議の時間を充実させ、更に授業改善を図る。教育課程については、生徒の進路に合わせて、また今後の入試状況に合わせて、さらに検討の余地がある。	生徒から「苦手科目を克服できた」、「主体的に授業に参加した」という声が聞かれた。研究成果の表れと思われる。今後も積極的に研究してほしい。ICT機器はどの教科でも活用できるよう整備を進めていってほしい。	授業改善についての意識が高まり、日常的な授業の見学が行われるようになった。一方で、今後高校生が備えるべき学力について職員が共通認識を持てるような研修や授業改善の計画が必要である。また、教育の現状を踏まえ、生徒に必要な教育課程をさらに検討していく必要がある。	授業研究会のテーマを明確にし、中・長期的な計画で実施する。新しい教育の考え方や入試の状況についての研修を行い、より良いものを作成していく。
2 生徒指導・支援	①部活動の活性化 ②人間性・社会性豊かな人づくり	①部活動の問題点・課題点を把握し、解決と加入率アップに向けた方策の検討を行う。 ②規範意識の醸成といのちや他者とのかかわりを大切に育む心育成を図る。	①年間複数回の部活動加入キャンペーンの実施。 ②全ての教育活動において時間厳守を励行し遅刻指導を徹底する。生徒の実態に応じてコミュニケーション能力向上等に向けた各種教室・講演会を開催する。	①学校全体で加入率増加の意見交換ができたか。部活加入率が65%となったか。 ②遅刻者年間延べ人数が10,000名以下(昨年度12,683名の2割超削減)になったか。生徒の実態に応じた各種教室・講演会を開催できたか。	①今年度1年間では加入率は減少している。単年での評価にとらえず、引き続き加入を伸ばす取り組みを進めていく。 ②教育活動全般において時間厳守を励行し遅刻指導を徹底した。生徒の実態に応じたコミュニケーション能力や、マナーの向上を目的とした各種教室・講演会を実施することが出来た。	①生徒からの要望等が実際に必要なものであるのかをすべて精査することはできなかった。今後、一つ一つ改善に向けて取り組みを進める。 ②遅刻件数を劇的に減らすことは出来なかったが、指導の内容改善等、具体的な対策に着手していく。	①部活動加入率が下がったのはやや残念だが、実績を残す部も出てきていることは評価できる。また、学校行事に対する生徒の向き合い方も考えてほしい。 ②遅刻の指導には家庭との連携が必要である。アルバイトの問題ともかかわって難しいが、周囲への迷惑を理解させ、社会へ出る準備をさせてほしい。また、今後とも教育相談を充実させることが大切だ。	①各部活動で本当に必要な費用がどの位あるのか、時間をかけて精査するための聞き取りを行った。それに基づき正しい予算配当を提示していく。 ②規範意識の向上を図るために具体的な対策を行った。教育活動を通じ、いのちや他者とのかかわりを大切にする心の育成をさらに向上させる。	①引き続き、加入率の上昇と、部活動で活動する生徒が安心できる環境づくりを目指す。
3 進路指導・支援	進路発見と 進路実現	より適切な第一志望の選択能力を育成する。 インターンシップへの積極的参加を促し、広い視点	実力診断テスト等により職員、生徒それぞれの成績分析会を実施する。 総合的な学習の時間等で職業理解・勤労観を養い、インターンシ	指定校やAO入試の応募状況と進学先の分析を行ったか。 昨年度に比べてインターンシップ参加者が10名以上増えた	1、2年生は成績分析会が実施できた。大学等の入試説明会に積極参加し、情報分析を行い、指導に生かした。 インターンシップは昨年度と同数の生徒が参加し、看護1日体験	3年生の進路決定までに(特にAO入試での進学者)成績分析会を行い役立てたい。 幅広くインターンシップ先の希望が出るように指導をさらに	外部テストの利活用を進め、的確な進路実現を支援していくことが必要だと思う。	進路を決定する際に外部のテストを利用することで、より客観的な自己認識が可能になった。 さらに幅広い分野のインターンシップに参加する生徒を増	校内成績と外部テストの相関を図れるよう本校独自の資料を作成し、進路指導に役立てられるよう、蓄積していく。 インターンシップ制度の利用が広がるよう、総合学習等を

			から進路を発見できるよう内容の充実を図る。	ップを積極活用するよう取り組む。	か。	に参加した生徒も増えた。	密にしていく。		やしていく必要がある。	通じて指導していく。
4	地域等との協働	地域教育力の活用	地域の中学校や大学と協働し、3年間の枠組みを超えた視点で教育活動を捉える機会を作る。 社会の一員として意識できるよう、防災活動などの地域連携の行事に参加する。	近隣中学校と、授業及び学校行事の相互見学を行い、意見交換をする。 地域との防災活動に参加できるように生徒の意識を高めるような取り組みを行う。	多数の職員が、校内及び近隣中学校との相互見学や意見交換の機会を複数回活用したか。 防災活動などの地域連携の行事に参加できたか、地域と協働した行事ができたか。	中学校と共同開催した研修会は充実し、参加者へのアンケートでも「参考になった」との答えが多かった。高津養護学校分教室とも連携し教育活動を進めた。一方で相互見学の参加者は少なかった。 地域主催の防災訓練に本校より14名が参加し、避難所の運営や役割分担を確認し、協力体制が出来上がった。	中学校との連携は充実したものとなったので、今後は大学との連携の在り方、方法を見直す必要がある。 災害が実際に発生したときに起きうる制約を想定したうえで、本校生徒がどのように地域に貢献できるかを検討する。	息の長い連携が望ましい。日ごろからのコミュニケーションが大切だ。 防災訓練はとても充実しているようだ。訓練がイベント化しないよう工夫が必要だ。	他校種の教育力を生かした研修を行うことができた。教育活動に生かすことはできたが、生徒が前面に出る機会は少なかった。 防災訓練に参加することで参加した生徒は地域の一員である自覚が促されたが、生徒全員が実感できる仕組みを考えたい。	生徒が直接地域と交流できる場を設ける。 DIGの導入など、地域防災について考える時間を設けるようにする。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の整備 ②事故・不祥事ゼロの取組	①創立40周年行事として教育環境等を整える。安全衛生に配慮した整備を行う。 ②職員一人ひとりが、事故・不祥事防止を自らの問題として認識し、事故・不祥事の未然防止に取り組む。	①学習や部活動に支障が出ないように環境整備に努める。トイレ衛生や体育館の安全面を改善・改修する。 ②グループ主催で、事故・不祥事防止研修会を開催する。正確な点検作業を行う。	①クラス増に伴う普通教室の設備を整えることができたか。施設の改善・改修が進んだか。 ②各グループごとに、事故・不祥事防止研修会を開催できたか。正確な点検作業を行えたか。	①学習や部活動の環境整備は40周年事業として、計画的に進めることができた。 ②職員会議等を中心に適時に事故・不祥事事例を取り上げなら啓発を行った。	①県費と40周年事業費とで充実した教育環境を整えることができた。更なる有効活用が求められる。 ②入学者選抜を始め、大きな事故なく終わった。次年度も重点項目を設けながら事故・不祥事の未然防止に努める。	①施設の充実により、生徒の一層の活躍が期待できる。 ②大きな事故もなくよかった。	①40周年事業で特別な施設ができ、これからの授業や行事での活用が期待できるが、トイレや廊下、天井などの通常の設備の不備を修繕することができなかった。 ②県からの注意喚起の通知等を基に研修を行うことが多かった。	①生徒が安全かつ衛生的に過ごせるように、意識的に環境整備に努める。 ②グループで分担をして本校独自の不祥事防止研修を行う等の工夫をする。